



社会福祉法人鶴風会

# 後援会ニュース

後援会ニュース4号をお届けいたします。

今号は東京小児療育病院に一歳九ヶ月より四年間入院療育し、今春より岐阜の養護学校に入学出来るまでになった長谷川茂夫君の母・病院長・医務部長の各立場よりの手記を中心に編集いたしました。

No. 4 (昭和51年)  
社会福祉法人鶴風会  
**後援会**  
東京都武蔵村山市中藤3260  
☎0425-61-2521  
事務所・東京都中野区  
本町2-15-13 ☎03-372-7650



## ご挨拶

社会福祉法人鶴風会後援会会長 近藤 龍一

後援会の皆様、後援会発足以来社会福祉法人鶴風会運営の東京小児療育病院及びみどり愛育園に多大の御援助を賜わりまして厚く御礼を申しあげます。  
皆様方のお力添えのお蔭で後援会の活動も一歩一歩ではございますが順調に進んでまいりました。

二月末には、三年にわたり病院の実態を追った映画「ともしびを高く」の完成試写会が行われました。  
多くの善意ある方々のお蔭で、病院の子供達は適切な療育、訓練を受けておりますが、この事業の前途にある数々の問題を考えます時、民間一施設の非力さに、いはいしれぬ歯がゆさを感じることもありますが、これまで十年余の病院の実績、ハンデイにめげず懸命に機能回復訓練にはげむ子供達、子供達を支えるねばり強く暖かい病院職員、そして多くの方々の御支援、その一つ一つが実って、今日まで最初にももされた小さな灯が絶えることなく受けつがれてきたのだと思います。

折悪しく世の中は目下大変な不況下、レイオフ、物価の高騰と変動めぐるしく、四十九年度には法人組織よりの寄附金二百万円余が、五十年年度では現在までに三十万円に満たず、募金総額は昨年度の半ばを大幅に下回る状態であります。このような時こそ福祉の仕事の社会的意義は極めて大きく、後援会の果たす役割の重大さを痛感いたしております。

十年前、この病院が開院された当時、一般の人々の間でほとんど脳性マヒという病名すら耳に珍しかった頃からみますと、現在では、国の行政も社会福祉を大きく掲げ、世間一般の方々の間にも老人問題とともに心身障害児に対する理解と関心が高まってまいりましたことは、この地味な仕事をコツコツ歩んでまいりました私どもにとりまして、本当に喜ばしいことであります。

この病院で療育、訓練を受けた子供達が、今後あかるく生活してゆける社会、今その必要性を痛感しております。今後とも皆々様のよき御理解と御支援を心よりお願い申し上げます。

# 障害児の母親として

長谷川 ふみ

昨年十一月、私達の長男、茂夫（六歳）は、四年間すごした東京小児療育病院を退院させていただき、自宅と同県内にある岐阜県立整肢学園に移りました。

療育はまだまだこれからも続けなければならぬのですが、脳性マヒと診断された茂夫が矯正靴をはいて独歩し、家族と言葉を交せるようになったのです。早期療育の重要性を身にしみて知った一障害児の母親として、ここに寄稿させていただきます。

「眼が見えていない。大きな病院で診察を受けなさい」と眼科の先生にいわれ、名古屋の国立病院へ五カ月ほど通ったでしょうか。生後七カ月にもなるのにまだ首もすわらず、音に対してだけは敏感な反応を示しました。おんぶしている時、汽車がすれ違ったりすると、小さな身体を異様なほどにつっぱらせるのです。

茂夫はここで、とうとう脳性マヒという診断を受けました。私達はどうしてもあきらめきれず、誤診であるようにと祈りながら、今度は名大の附属病院へ連れて行きました。

しかし、ここでも同じ診断でした。知能も運動機能も発達せず、食事、排泄すべてに人手をわずらわし、寝たきりで一生を終えなければならぬというのです。

暗い気持ちで毎日を通すうち、九カ月に入った茂夫ははじめて自力で寝返りを打ち、右腕の力だけで這い這いもするようになりました。そのころには眼も見えはじめていたようです。

障害を背負いながらも成長しようとする生命力が小さな身体いっぱい溢れているのを見ると、いじらしさと哀れさで胸をつかれる思いでした。

ちょうどそのころ、近所の方が東京小児療育病院のことが掲載されている婦人雑誌を見せて下さったのです。とびつような思いで私は院長先生に手紙を書きました。四日後に待ちかねた返事を頂

き、五月はじめ、主人と私は茂夫を連れて上京致しました。

早期療育によってかなりの機能を回復するという藤永先生のお話は私達に希望をあたえるものでしたが、岐阜にいては療育を受けることが出来ません。

私の家はもともと農家で父と母が農作業の中心になり、主人は自動車整備工として勤めに出ていました。けれども、父も母も気持ちよく上京をすすめてくれました。主人の仕事は東京で探すことが出来ます。茂夫がすこしでも普通の子供に近づくことが出来るならと必死になっていた私達は、思い切っ

て東京へ引越し、茂夫を入院させることになりました。そのとき、茂夫は一年九カ月、言葉は全然ダメで這い這いと正座が一分足らず出来る程度、足を前に投げ出して座ることすら出来ませんでした。

上京後まもなく、私は妊娠しました。子供は欲しかったのですが、茂夫があんな状態だけに、このまま産んでよいものかどうか、ずいぶん迷いました。というのも茂夫の脳性マヒについて出産が原因ではなかったかと、自分なりに疑っていたからです。

茂夫の出産のため、私が入院した母子センターは助産婦だけで医

師はいませんでした。朝八時入院出産は夜中になりましたが、私の場合、早期破水したわけでもないのに羊水が異常にすくなかったそう、助産婦が医師に連絡をとってくれましたが、街から離れている上に夜中のことで、とうとう来

てもらえませんでした。やっとのことで産まれた茂夫は産道で圧迫されたためか、チアノーゼがひどく仮死状態でした。

産ぶ声もたず、六日間酸素吸入を続けて、九日目にやっと退院しましたが、お乳に吸いつく力が弱いのでミルクをさじですくって飲ませていました。

こんな事情がありましたので、二度目の出産に不安と恐怖がつきまとっていたのです。今度もやはり羊水が少なく、茂夫の時と全く同じでしたが、立川の国立病院で産科医立会いのもとに無事出産しました。次男の行正（ユキマサ）は現在三歳で丈夫に育っています。

羊水が少ないとはいってもお腹があまり大きくならないだけで格別変わった徴候はありません。初めから異常とわかっていれば茂夫のときも大きな病院で出産したのと今でも残念です。

その後二年間、東京で暮らしましたが、四十八年八月、疲労が重な

っていた岐阜の父が脳溢血で倒れてしまいました。続いて母も看病疲れで入院し、私達はやむなく茂夫を病院に残して岐阜へ帰ることになりました。

今までは土曜日に茂夫を自宅に連れて帰り、月曜日の朝までに病院へ送って行くというように変わりました。月に二、三回、行正をおぶって新幹線で岐阜―東京間を往復するのですが、この交通費が私達の一家にはかなりの負担でした。

入院費の方は東京都に確定申告の写しを提出して、ごくわずかな一部負担金を郵便局に払い込むだけで済んでいたのです。

病院ですごした四年間、茂夫は年一回、催される運動会に一度も欠かさず出場していますが、その競技種目がなによりも訓練の成果を如実に語っています。

最初の年は這い這い競争、二回目はパラレルバーにつかまっの徒歩競争、三回目は杖をついての徒歩競争、四回目は背中をささえられて杖なしの徒歩競争、五回目は矯正靴をつけての徒歩競争でした。療育の効果があつたといえ

普通の子供とは全く違います。

主人と私の死後、この子が行正の重荷になりはしないか、将来への不安はぬぐいきれません。

行正にお乳を飲ませながら、おむつを換えてやりながら、私は、「お兄ちゃんを大事にするのよ」と心の中でなん回もなん回も繰り返して来ました。今も一日一回は必ずいい聞かせています。

行正は「お母ちゃんの馬鹿」と言う時でも「お兄ちゃんだけは大好き」ですし、お兄ちゃんがお風呂呂に入るとき服を脱ぐのを手伝ったり、「お兄ちゃんがお水飲みたいの」「おしっこがしたいの」と私達に知らせに来てくれます。

茂夫も会うと第一番に聞くのが「ユキちゃんは？」です。この二人の兄弟がいつまでも仲良く暮らして欲しい、茂夫は簡単な本を読んだり、テレビを見たりしてすこしでも生活の楽しみを得られるようになって欲しい——この二つが私の日々の願いであり祈りです。

十二月一日、岐阜整肢学園へ入園させていただきましたが、そこで、「この年齢でこれだけの障害を背負いながら自分の事が自分で出きる。今迄の病院の訓練には頭の高さる思いです」といわれました。本当に有難うございました。

## 茂夫君について

東京小児療育病院院長  
藤永 数江

脳性マヒは、乳児期から訓練を行うことが最も効果があるので、最近では積極的に超早期療育を行うようになってきた。

茂夫君は、当院で数多い幼児脳性マヒの一人で、入院してきた時は一歳九カ月であった。超早期療育をはじめた一人である。

茂夫君は、大きな不随意運動があり、上下肢ともに目的動作はな一つ出来なかった。特別な椅子に座らせても不安定で、一つの姿勢を長く保っていることが出来なかった。口や唇もうまく動かないし、呼吸も不規則で下手であった。言葉もかすかにハイらしいことを聞けるのみであった。こんな茂夫君から今日のたくましい茂夫君を想像することは出来なかった。

療育効果をあげるには、訓練が中心であるが、訓練室内での訓練は一時間足らずであり、その他の時間は病室内である。この長い時間の取扱いが大切な訓練なのである。

日常生活の中で、正しい姿勢を教え、多くのものを見せたり、さ

わらせたりして正しい経験させ、体に正しい運動を覚えさせる努力を常に心掛けることである。

茂夫君は理解力もあり、性質は素直で、教えられたことに対して一生懸命努力した。毎年運動会のおびに、出来るようになったことがふえて、昨年の秋には独歩でテーパーをきるところまでになった。又日常生活動作も大体自立出来、明瞭ではあるが日常の会話も可能になった。

茂夫君は今春岐阜の養護学校に入学することになっている。学校に行くようになったら、更に一段と心身共に成長していくことだろう。茂夫君ガンバレ。

## 茂夫君の言語訓練

東京小児療育病院医務部長  
小野 和郎

入院時、一歳九カ月だった茂夫君のことは、返事の「ハイ」は明確だったが、喃語の時期だったといえる。不随意運動型のC.Pのため、発声発語器官の機能は不随意運動があつたりして障害は重く、CSSも下手であった。

このような状態を示す茂夫君のセラピーが昭和四十八年四月より開始された。理解力に比し表現力がかかなり劣ることから、語意の増加と発声発語器官のセラピーが主目標となった。絵カードを使って

遊ぶ、その他、食物をかむ、舌を随意的に動かす訓練などが具体的セラピー内容であった。セラピー開始当初は週一回のセラピーであったが、その後、週二回から三回へと増やした。内容も変わっていったことは勿論のことである。

一年後には、一語文から二語文が出はじめていたが、まだ、明瞭性に欠けるといふ問題が残されていた。二年半を経過して、日常的な会話が可能となり、意志表示や自分の考えも、まとまりのあるそれまでよりは、長い文章で話ができるようになったが、まだ、明瞭性の問題は残されていた。

このようにして、退院までの四年の間、セラピーを実施してきたが、問題は残されているとはいえず、会話が可能になったことで、セラピーが全くのムダではなかったと嬉しく思っている。それにしても最も大きな力は、茂夫君のいつでも投げ出さないで一生懸命やろうとする気持と、課題に対する真剣な取組みと素直さではなかったかと思う。セラピストは常に援助者であり、主体がセラピーを受ける者にあるとするならば、まさに茂夫君は彼自らの手で、自からの発達を獲得したといえるのではないだろうか。



秋季運動会

後援会会員ならび  
に寄付者芳名

アイウエオ順・敬称略  
二八二名(五〇七五・三)

赤司俊雄・浅利重子・天野まき子  
青木ゆう・青木よし子・秋葉喜代子  
赤羽久子・芦川尚子・青木 瞬  
浅香富允・青木智恵・浅野 正夫  
天野三男・青柳享世・井口洋一  
井上照子・井上瑞穂・飯国桃夜  
伊藤 礼・今井 言・五十嵐いづ子  
稲垣 正子・石橋進一・稲葉真理  
岩崎 裕彦・池田 聖・石森ミト  
大塚俊章・伊村欣祐・井上裕子  
石塚勝定・今田峰子・石川典子  
池田節子・池田志保・池田謙三  
諫山 高雄・井口 昌亮・上田 葉  
宇野宮幸枝・内田博之・浦田とめ子  
牛込莊一郎・梅宮次郎・内野圭吾  
牛田みち子・内田貴士・江口米人  
大岡良子・大久保秀雄・及川富美子  
岡副鉄夫・緒賀康宏・小原正樹  
小樽 夏加・大脇 照枝・小川 清  
大熊 進・大熊はつみ・小川美恵子  
奥田 嘉門・太田道子・大谷明子  
小野寺慶子・大江新太郎・川合朝子  
勝美富美・加納桂子・上高嘉納子  
川村登美子・数井ふさ子・河村やえ  
加藤薬品(株)・河方延介・門 脇  
川路春雄・嘉摩辰金史・上出元子  
河原 節・菊地 久子・岸本 義一  
木下 逸雄・岸 直枝・北沢 新治  
久木元正延・国方澄子・日下孝子

工藤訓正・久保田くら・倉富孝子  
呉 みどり・呉 美村・栗田邦夫  
葛野シヅ・久保田トモ子・高山政雄  
小林信子・小金沢清美・小林昭子  
小池 広子・児玉筆子・小松伸弥  
小池 脩・近藤澄子・小林えみ子  
後藤千恵子・後和竹尾・小松よう子  
佐々木富美子・斉藤捷夫・佐々木明子  
子・左京福・猿橋勝子・佐藤修子  
坂元八千代・斉藤盛夫・西條 道  
桜井由美子・佐藤菊枝・佐藤照子  
佐藤千美・沢田由美子・佐々木庄八  
斉藤はな・坂 井・島津幾之進  
篠田 陽子・島 積善・四釜つく  
鈴木繁雄・鈴木まち子・菅 邦夫  
須藤さみ子・杉立美恵・杉山正美  
関口喜久子・瀬戸富喜代・関根久子  
瀬尾 昇・関根 嘉子・高橋 浩  
高橋百合子・高石 敏・田中政五郎  
高橋健一・武谷ピニロピ・高垣益子  
高橋仁子・高城千尋・多比良 勉  
立花 誠・高橋道生・田島 高子  
高橋三代子・谷彦礼子・千木良 清  
坪井秀夫・塚本 佳子・鶴見秀男  
寺田俊郎・陶山千佳子・土肥幸枝  
徳永恵子・長沢由紀子・中川路三  
中谷孫一・直井喜美子・中川甲子  
成毛ミチ子・中平貴子・中島信次  
長田 絢子・直井治子・中嶋ふさ  
永井龍男・二宮文乃・新美静江  
西村歌子・西村喜美子・西田文字  
西川和子・野沢良美・野沢多都美  
野村章恒・能勢勇一・野坂達子  
長谷川健二・蜂須賀ふみ・蓮沼啓一  
長谷川千余子・原村静子・長谷山陽子  
子・原 信子・林 茂樹・蓮田 清  
萩原 紀・長谷川ふみ・日根野妙子  
平林幸雄・平沢 幸子・東出 篤衛  
東出祥子・久山 斌・比留川 真  
日野チヨ子・平岩扶美子・日上和子  
藤田親代・藤森市子・藤藤満洲野  
藤田貞代・藤田美代・福田千里  
笛木トキ・藤井京子・布施京子  
古川 明・藤田 トミ・藤生 幸彦  
船津夫佐子・福島 堅・堀内千鶴子  
本多 英二・堀 敏子・松 平  
増田良二・前田いね子・松岡玉枝  
松永健治・松岡 讓・町田純一  
松永尚久・前川 信雄・松尾良秋  
マキパール・牧 茂治・真樹高綱  
三浦真一・三浦藤四郎・三島 治  
三島 祝子・宮田 敬一・宮永 豊  
武藤京子・村田ユキ・村野喜代  
室伏弘子・村上レイ子・村松功雄  
森 寿恵・守矢 公平・森田 和子  
守屋 孝子・本明 寛・柳沢 浜子  
山田 寛司・山田悦世・山口 銀子  
山口 三恵・山口 郁三・篠本 瑛子  
山寺 保・山住美津子・矢沢三郎  
八代 圭子・湯浅英世・良田 圭子  
吉田千恵子・米山土朗・吉松 博  
鷺津栄作・渡辺静子・渡辺政子  
渡辺鈴子・渡辺栄久・倉島 撰子  
後藤 マン

大和証券株式会社・三菱信託銀行・三菱信託銀行立川支店有志・東邦大学・東邦大学医学部6年・森医院募金箱・カルチャー出版社

▼お知らせ▲

■五十年度、募金総額は三百五十三万五千五百七十五円、御寄附いただいた方の延べ人数は五四一名(含法人)になりました。

■五十年八月、厚生省より平賀伝氏が東京小児療育病院・みどり愛育園総務部長として着任されました。

■東京小児療育病院及びみどり愛育園の実態をドキュメンタリーに撮った映画「ともしびを高く」(文部省推せん)が完成し、去る二月二十七日、読売ホールにてチャリティ試写会が催されました。多くの方々の心からの御協力で盛況裡におわりましたことを後援会一同感謝しております。

■三月四日朝日新聞朝刊にその映画が紹介され、全国より療育相談、フィルム貸し出しの問合せなどが数多く寄せられました。

■フィルム貸出しは原則として団体が対象、貸出し料は一万円、事務局まで取りにきて頂くことが条件です。鉄道便などによる貸し出しは破損のおそれがある為、お断り致します。

■後援会では、バザーを計画。各御家庭で不必要なものがありましたら(衣料・食料品・石けん・茶器・ベビー用品など)御寄附ください、お問合せは後援会(月、水、金)までお願いします。

■入院、診療についての御相談、ボランティアのお申込みは○四二五―六一―二五二一(東京小児療育病院)へ。  
■後援会ニュースは年二回発行の予定です。お気づきの点、病院見学の御希望などありましたら後援会(○三十三七二―七六五〇)にてお知らせ下さい。